

重賞・新馬戦プレイバック(7月28日・11R)
重賞 第11回・金沢スプリントカップ

馬体も走りもスケール大！サミットストーン

2番手からゆっくりと前を捉えに行く



2 角

ひと息入れて直線へ 4 角



第11回 金沢スプリントカップ

優勝馬ストーリー

スタンド前



この後1角で外に出す吉原J

スタート



やや出遅れた①サミット



直線

鞍上の指示に応じて引き離れた



優勝

①サミットストーン(加藤義厩舎)

まだ完調手前？ それでも底力が違った

昨年の覇者・ナムラダイキチは放牧休養中。代って主役を演じるのは6月移籍の①サミットストーンか？ それとも古豪・⑧セイカアレグロか？これに短距離得意のダイキチの弟分⑤ナムラプラトーン。地区交流のホスト側である金沢馬は昨年にも増して豪華だった。中でも前走1500m 1.34.5の破格のタイムで圧勝した①サミットストーン。地元は元より、遠征馬の中にも『あの馬が居るから…』と戦前から弱気の弁が相次ぐ。予想も①サミットに◎印が目白押し。”相手探し”のタイトルが踊った。はたして3千人近くが見守るスタンド前からのスタート。①サミットストーンが半馬身出遅れ。ヒヤッとしたが、1角で外に持ち出し2番手。騎乗している吉原騎手も、これでひと安心？ さて逃げる⑨サクラルモンドを3角で抜き去りひと息入れた①サミットストーン。4角手前からゴーサインを出すと、後続⑤ナムラプラトーンや⑧セイカアレグロが一杯になった事もあり徐々に差を広げ3馬身差快勝。新規開業の加藤和義調教師が開業2ヵ月で早々と重賞初制覇を成し遂げた。

第11回 金沢スプリントカップ3歳以上(東海・近畿交流)

7月28日(日)金沢 11R 1400m:良

馬番	馬名	所属	体重	性	年齢	斤量	騎手	着差	タイム	人気上がり
1	サミットストーン	金沢	545	牡	5	56	吉原寛	1286	① 39.4	
8	セイカアレグロ	金沢	517	牡	8	56	吉田晃	3 1293	② 39.7	
4	トウホクビジン	笠松	439	牝	7	54	佐藤友	3/4 1294	③ 38.3	
7	タッチデュール	笠松	408	牝	4	54	東川公	3/4 1295	⑥ 38.2	
5	ナムラプラトーン	金沢	482	牡	4	56	畑中信	3/4 1297	④ 40.1	
3	アルドラ	金沢	438	牝	4	54	米倉知	2 1301	⑧ 38.7	
6	バイオレントナイト	笠松	464	牡	7	56	尾島徹	クビ 1301	⑦ 38.0	
2	ドリームスカイラブ	笠松	505	牡	8	56	花本正	1 1303	⑤ 40.1	
9	サクラルモンド	金沢	517	牡	4	56	寺地誠	3 1310	⑨ 41.9	

ハロン 12.66 上り 51.4 39.5 平均ペース

1 角	9,1,5,8,2,4,7,3,6
2 角	9,1,5,8,2,4,7,3,6
3 角	1,(9,5,8),2,4,7,3,6
4 角	1,8,5,9,2,7,4,3,6

馬単 ①-⑧ 200円

3連単 ①⑧④ 780円



勝ちに行つての2着。負けて納得のベテラン

⑧セイカアレグロ(佐藤茂厩舎)



直線で大外猛追した ご存じ交流の常連

④トウホクビジン(笠松・笹野厩舎)